

盛年時代

自五十一才
至六十才

智能を磨き生き甲斐ある人物となれ、

老年時代

自六十一才
以上

報恩的に社会奉仕以って徳行に努むべし。

一、急がず、怒らず、憂ひず、悲まず。

一、最初の釘を掛け違へれば最後の釘は掛けられぬ。

一、長所と交れば悪友なし。

一、牡丹餅欄にあれども起て是を取らざれば食ふこと能はず、事小なりと雖も為さざれば成らず。

一、活動とは或る目的を指して突進する働きを指す、故に活動家の心身は常

に緊張し元気に満ち計劃に満ち又他念を容れない。

しせいどりよく
至誠努力

自
動
自
活

高 一丈八尺
幅 四尺五寸 石碑
重 二 千 七 百 貫

一、財を積んで子孫にのこす子孫必ずしも之を守らず。

一、書を積んで子孫に遺す子孫必ずしも之を読まず。

一、須らく財を散じ陰徳を施し子孫をして長計の謀を為すに若かず。

水戸部 弥作 壁書

傲は長ずべからず。

慾は縦にすべからず。

志は満すべからず。

樂は極むべからず。

恩を施して報を望むなかれ。

名譽の奴隸となるなかれ。

形に捉はるるなかれ。

虚心坦懐人の教を聴くべし。

一、人生は無限の樂園也

少年時代 至 十五才

家庭内にて親兄弟の教を守ること、
学校内にて先生の教を守ること、

青年時代

自 十六才 至 二十五才

教育者の教は勿論社会全般の要素を自覚
吸収に勤め常識を養ふべし、

壮年時代

自 二十六才 至 五十才

智能を發揮して生業に努力し人生の義務
として蓄財すべし。